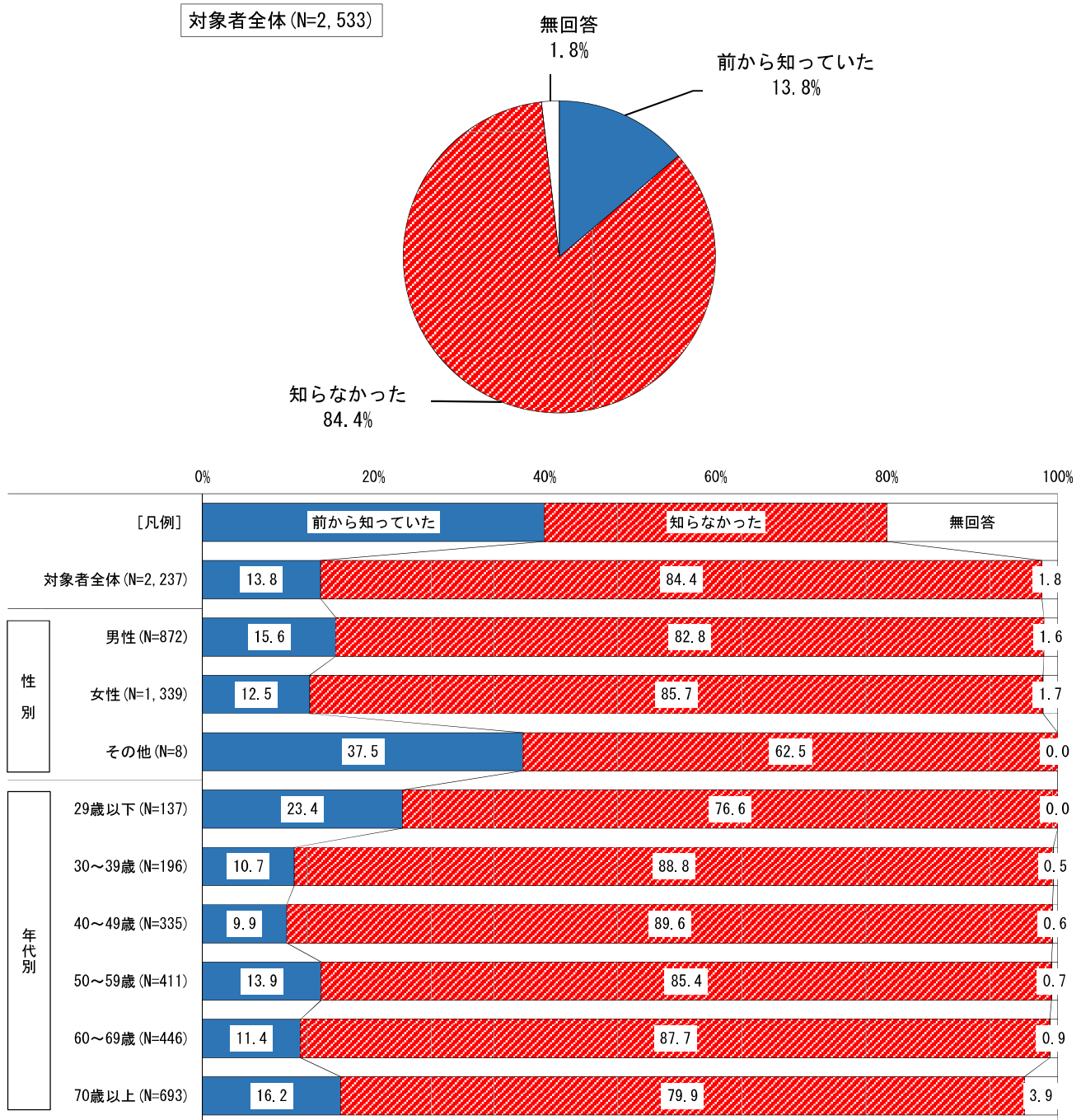


(4)札幌市における自殺対策について

◇札幌市で年間300人以上が自殺していることに関する認知度

問26 札幌市において年間300人を超える人が自ら命を絶っています。あなたは、このことを知っていますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

札幌市で年間300人以上が自殺していることについて、「前から知っていた」人が13.8%



【全 体】札幌市で年間300人以上が自殺していることについて、「前から知っていた」が13.8%、「知らなかった」が84.4%となっている。

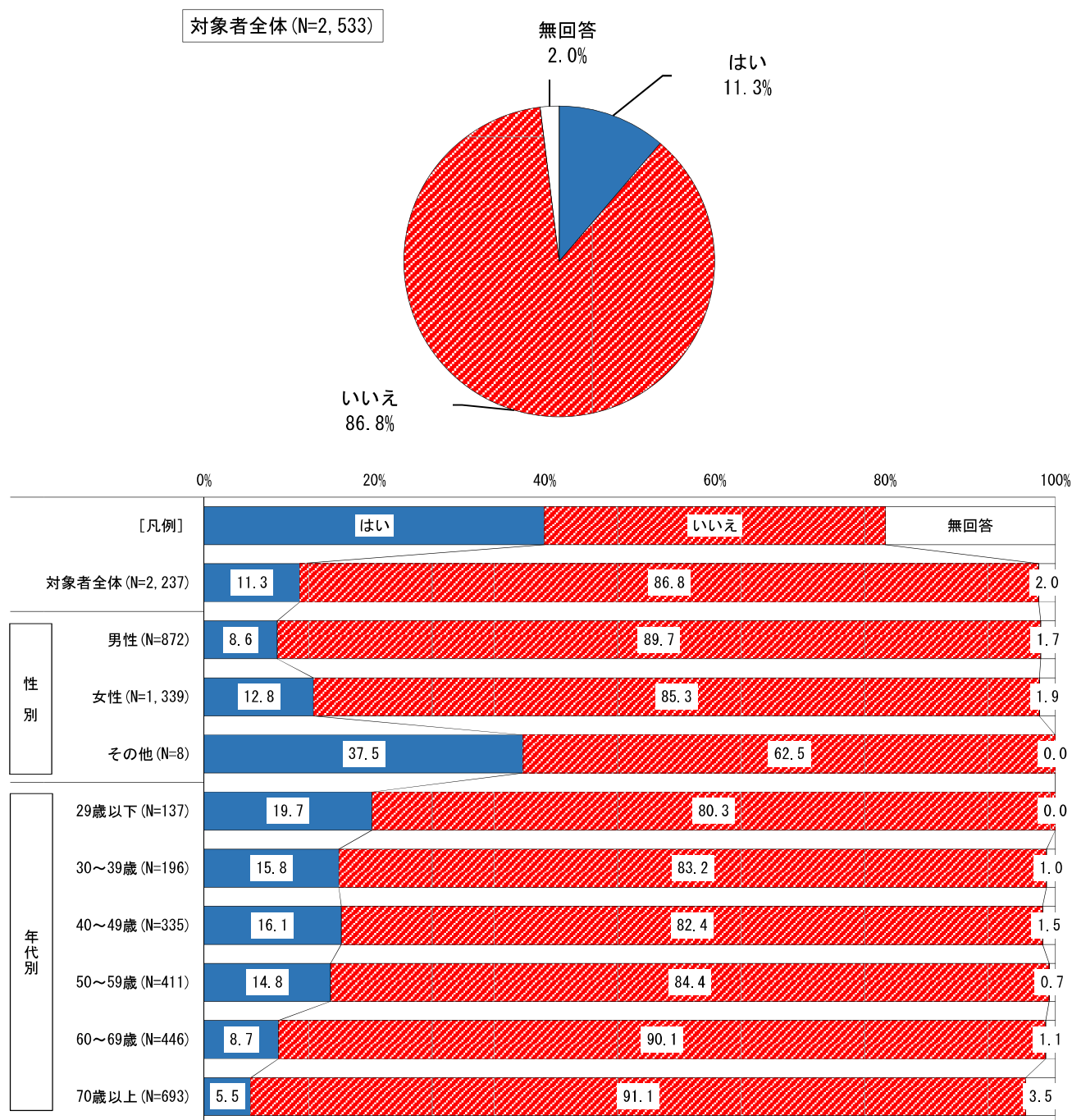
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「前から知っていた」が29歳以下(23.4%)で最も高く、次いで70歳以上(16.2%)、50歳代(13.9%)となっている。

◇自殺に関する相談を受けたことがあるか

問27 あなたは、周りにいる悩んでいる人から「死にたい」という相談を受けたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自殺に関する相談を受けたことがあるかについて、「はい」と回答した人が11.3%



【全 体】 自殺に関する相談を受けたことがあるかについて、「はい」と回答した人が11.3%、「いいえ」と回答した人が86.8%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

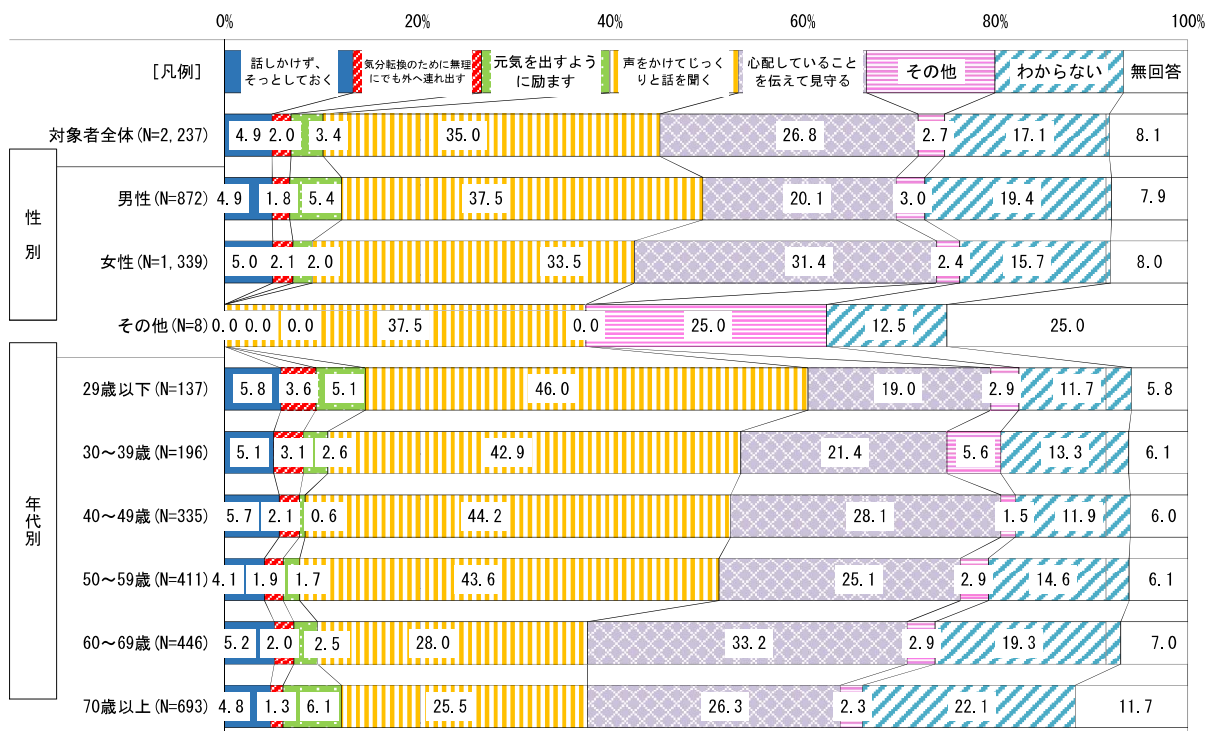
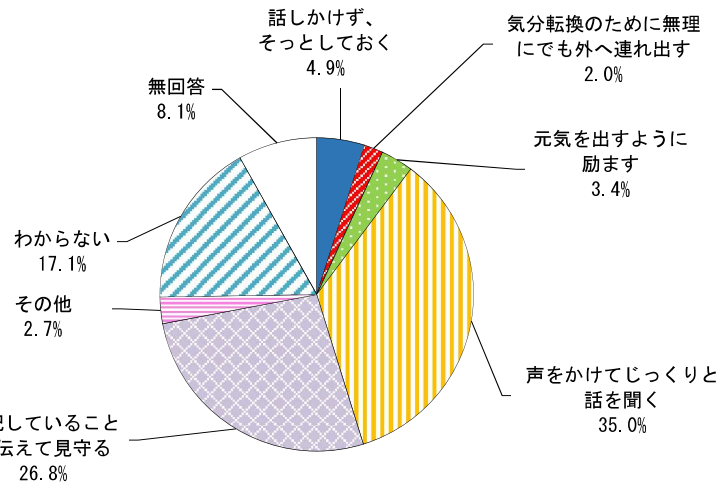
【年代別】 「はい」が29歳以下（19.7%）で最も高く、次いで40歳代（16.1%）、30歳代（15.8%）となっている。

◇悩んでいる人に対する最も望ましいと思う対応について

問28 あなたは、周りにいる悩んでいる人にきついたとき、どのように対応するのが最も望ましいと思いますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

悩んでいる人に対する最も望ましいと思う対応について、「声をかけてじっくりと話を聞く」と回答した人が35.0%

対象者全体 (N=2, 237)



【全 体】悩んでいる人に対する最も望ましいと思う対応について、「声をかけてじっくりと話を聞く」が35.0%、「心配していることを伝えて見守る」が26.8%、「話をかけず、そっとしておく」が4.9%となっている。

【性 別】「心配していることを伝えて見守る」は女性が31.4%と、男性の20.1%より11.3ポイント高くなっている。

【年代別】「声をかけてじっくりと話を聞く」が29歳以下(46.0%)で最も高く、最も低い70歳以上(25.5%)と比べると20.5ポイントの差となっている。

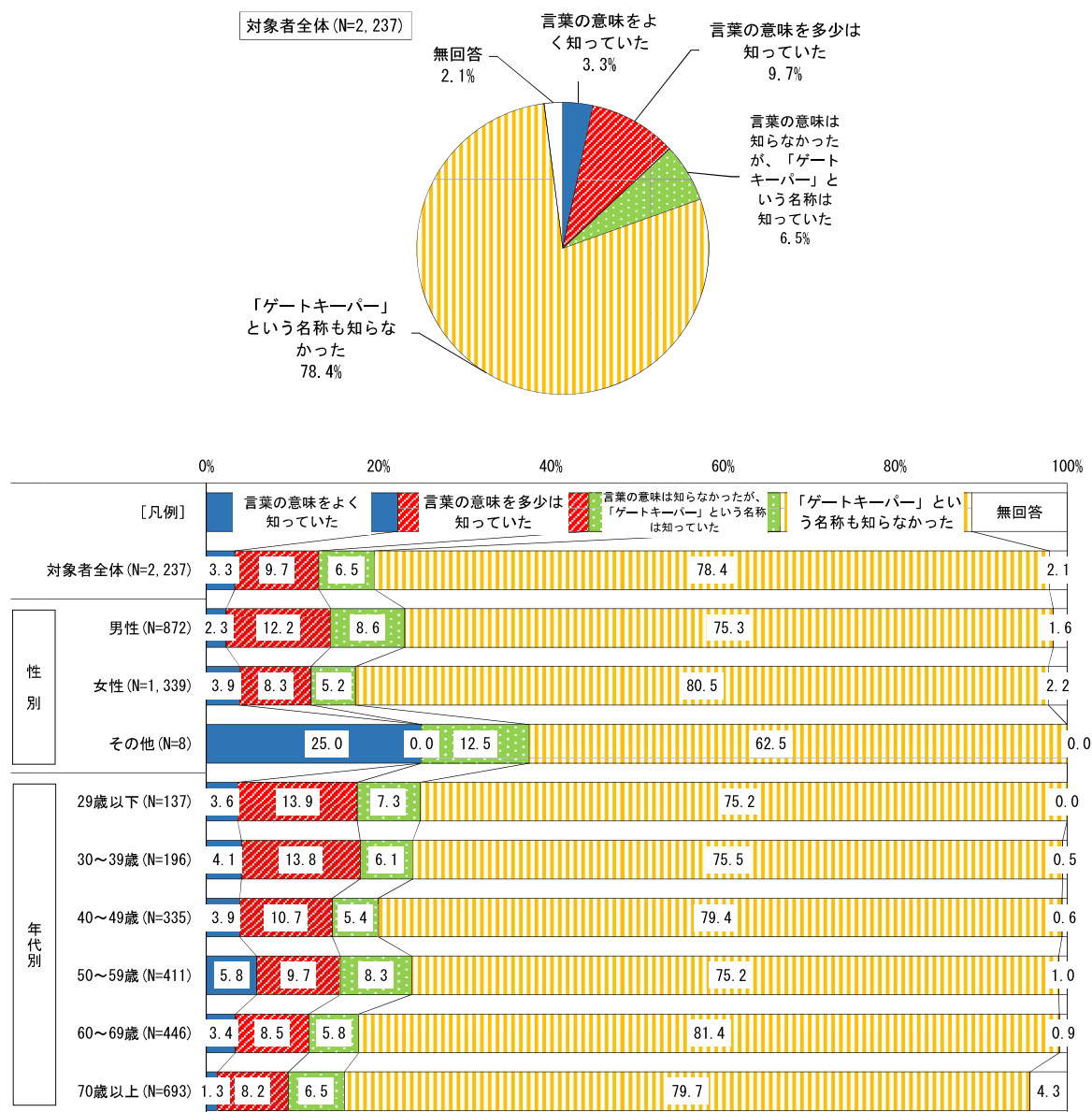
◇「ゲートキーパー」に関する認知度

「札幌市では「市民一人ひとりがゲートキーパーになること」を目指して自殺対策に取り組んでいます。「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人にきつき、声をかけ、話をきいて、必要な支援につなげ、みまもる人のことです。特別な資格は必要なく、さまざまな立場の方が、それぞれの立場においてゲートキーパーになることができます。」

問29 あなたは、前記の「ゲートキーパー」の意味は知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「ゲートキーパー」について、「知っていた」人は19.5%

※ “知っていた” = (「言葉の意味をよく知っていた」 + 「言葉の意味を多少は知っていた」 + 「言葉の意味は知らなかったが、「ゲートキーパー」という名称は知っていた」)



【全 体】「ゲートキーパー」に関する認知度について、「言葉の意味をよく知っていた」が3.3%、「言葉の意味を多少は知っていた」が9.7%、「言葉の意味は知らなかったが、「ゲートキーパー」という名称は知っていた」が6.5%、合わせると19.5%となっている。一方で、「「ゲートキーパー」という名称も知らなかった」が78.4%となっている。

【性 別】「ゲートキーパー」という名称も知らなかった」は、女性が80.5%と、男性の75.3%より5.2%高くなっている。

【年代別】「言葉の意味を多少は知っていた」は、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

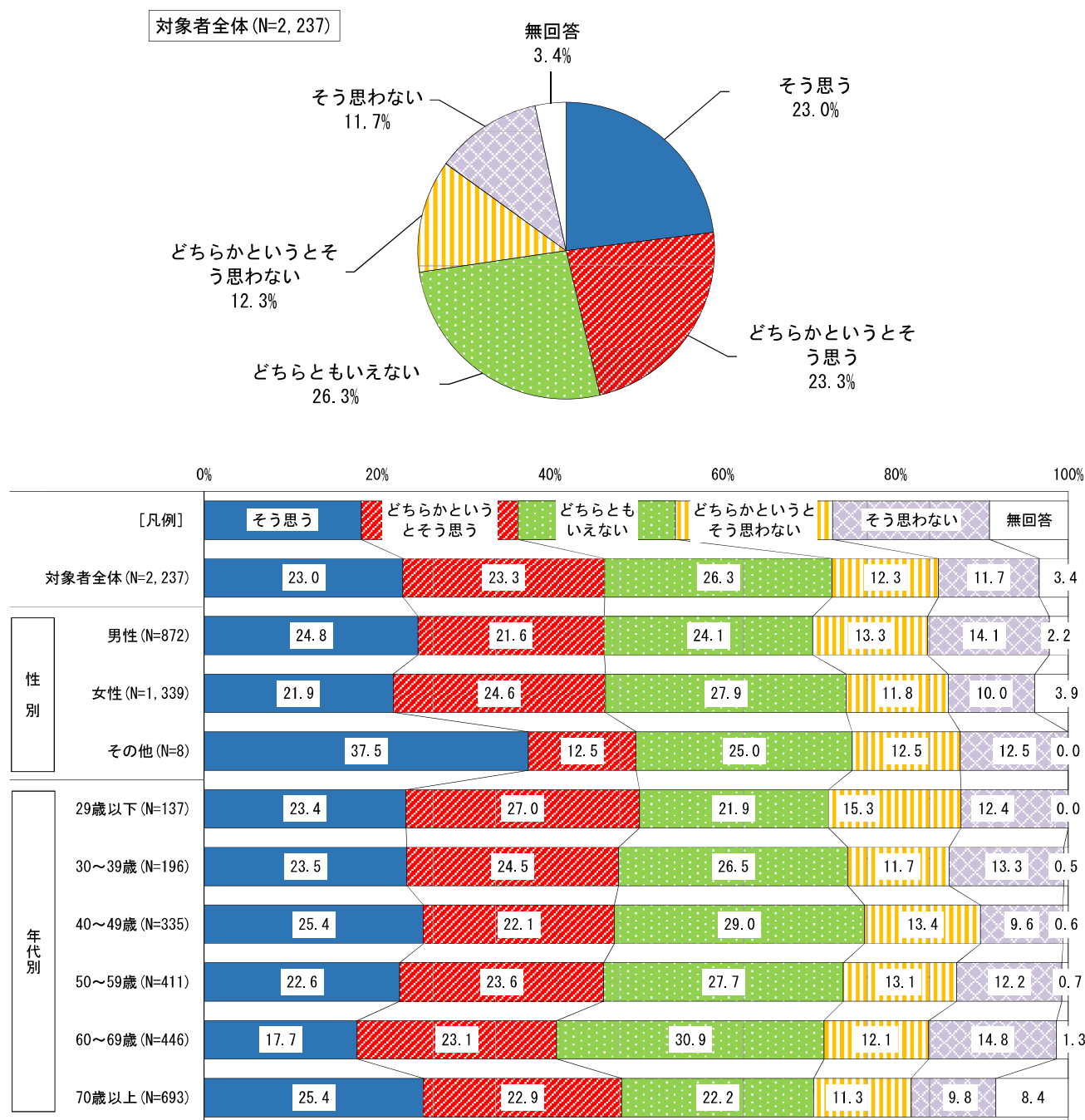
◇アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関する自身の考え

問30 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

ア 依存症は病気であり、本人の性格や意志の問題ではない

依存症は病気であり、本人の性格や意志の問題ではないと「思う」人が46.3%

※ “思う” = (「そう思う」 + 「どちらかというと思う」)



【全 体】 依存症は病気であり、本人の性格や意志の問題ではないことを「そう思う」が 23.0%、「どちらかというと思う」が 23.3%、合わせると 46.3%となっている。一方で、「どちらかというと思わない」が 12.3%、「そう思わない」が 11.7%、合わせると 24.0%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 29 歳以下では「どちらかというと思う」が、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代では「どちらともいえない」が、70 歳以上では「そう思う」が最も高くなっている。

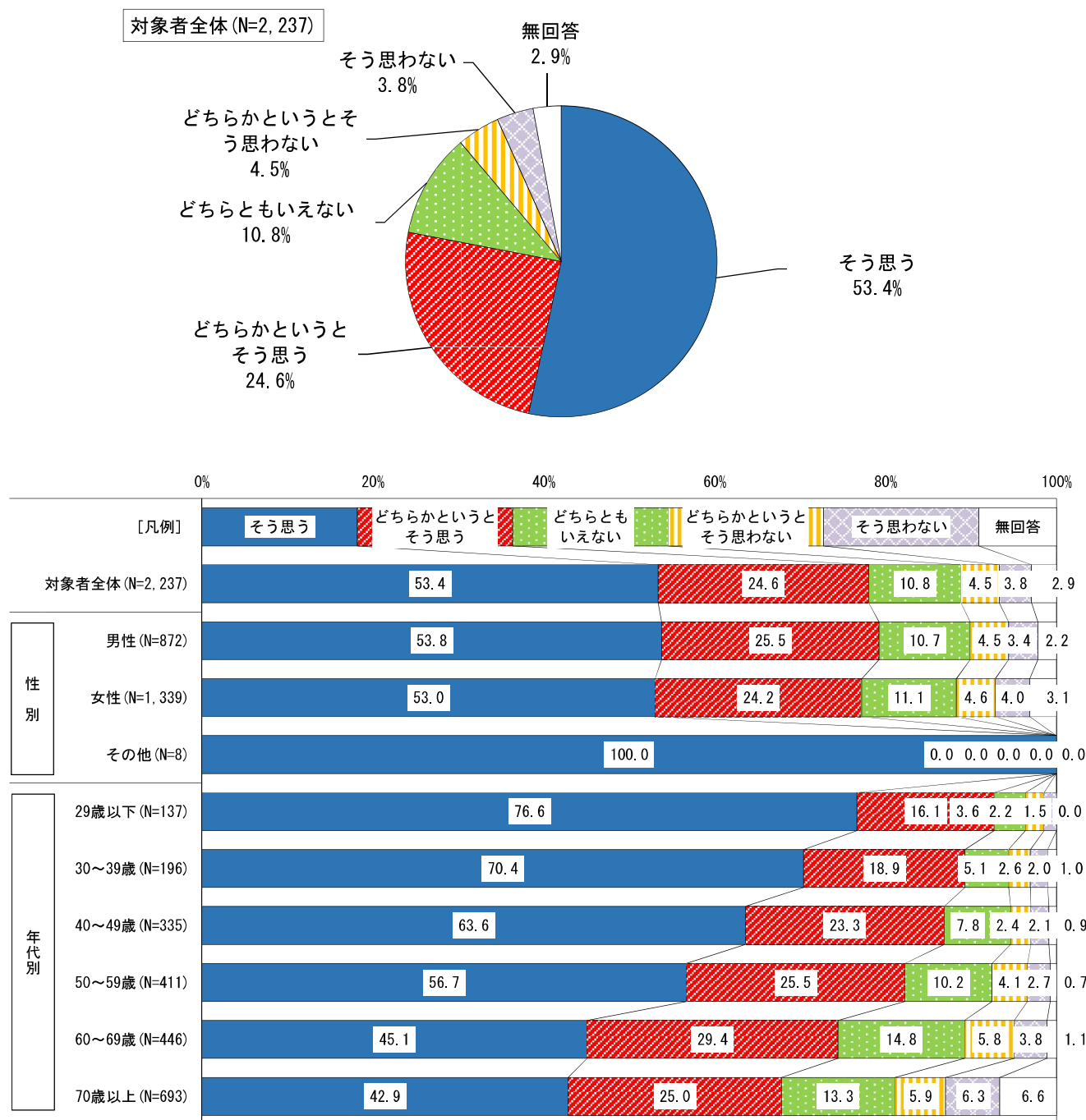
◇アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関する自身の考え

問30 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

イ 依存症は、誰にでも起こりうる問題である。

依存症は、誰にでも起こりうる問題であると「思う」人が78.0%

※ “思う” = (「そう思う」 + 「どちらかというと思う」)



【全 体】 依存症は、誰にでも起こりうる問題であることを「そう思う」が53.4%、「どちらかというと思う」が24.6%、合わせると78.0%となっている。一方で、「どちらかというと思わない」が4.5%、「そう思わない」が3.8%、合わせると8.3%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「そう思う」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

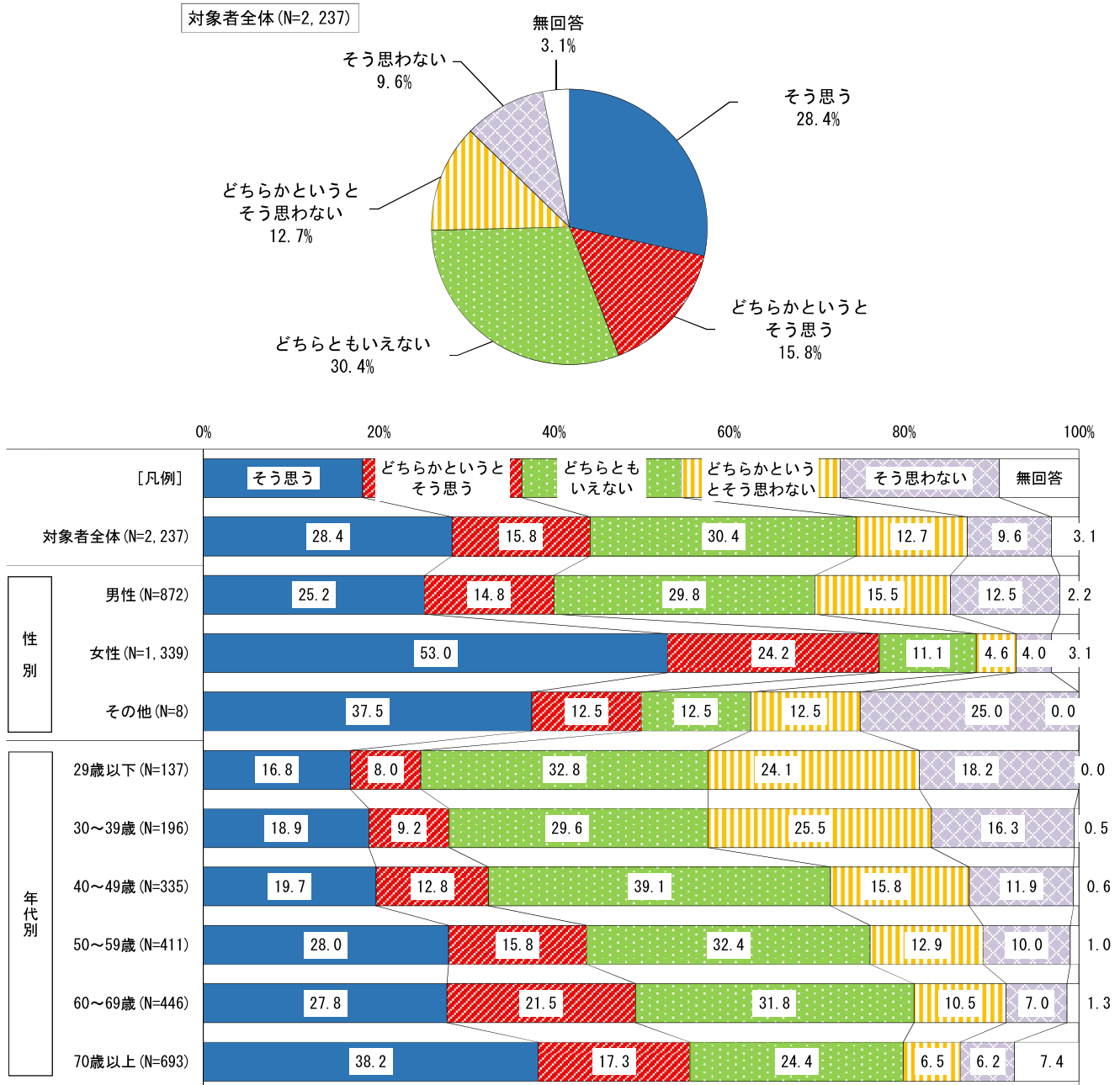
◇アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関する自身の考え

問30 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

ウ お酒やギャンブルはストレスを発散することにはつながらない

お酒やギャンブルはストレスを発散することにはつながらないと「思う」人が44.2%

※ “思う” = (「そう思う」 + 「どちらかというと思う」)



【全 体】 お酒やギャンブルはストレスを発散することにはつながらないことを「そう思う」が28.4%、「どちらかというと思う」が15.8%、合わせると44.2%となっている。一方で、「どちらかというと思わない」が12.7%、「そう思わない」が9.6%、合わせると22.3%となっている。

【性 別】 「そう思う」「どちらかというと思う」は、女性が男性より9.4ポイント以上高くなっている。また、「どちらともいえない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」は、男性が女性より8.5ポイント以上高くなっている。

【年代別】 29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「どちらともいえない」が、70歳以上では「そう思う」が最も高くなっている。

◇アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関する自身の考え

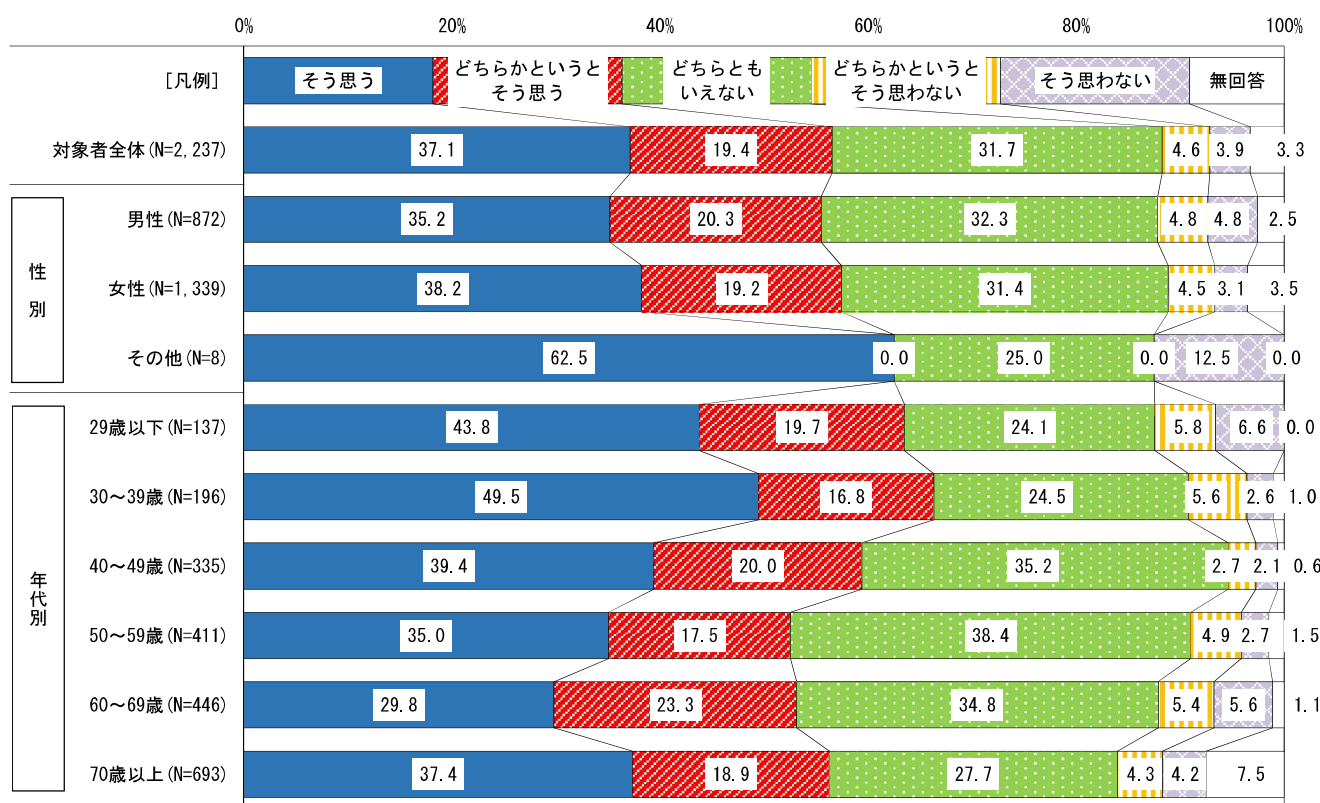
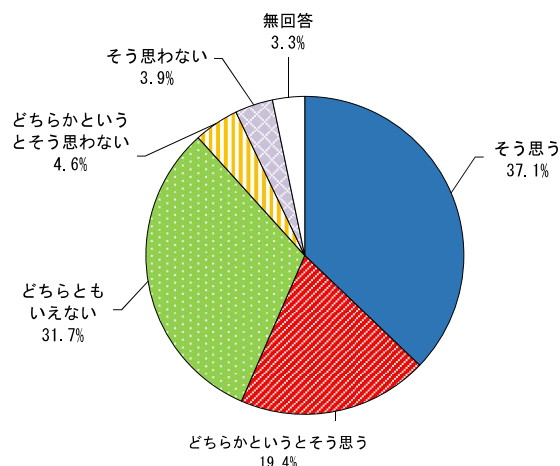
問30 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

エ 借金などのトラブルを家族が肩代わりして解決するべきではない

借金などのトラブルを家族が肩代わりして解決するべきではないと「思う」人が56.5%

※ “思う” = (「そう思う」 + 「どちらかというと思う」)

対象者全体 (N=2,237)



【全 体】 借金などのトラブルを家族が肩代わりして解決するべきではないことを「そう思う」が37.1%、「どちらかというと思う」が19.4%、合わせると56.5%となっている。一方で、「どちらかというと思わない」が4.6%、「そう思わない」が3.9%、合わせると8.5%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「そう思う」が30歳代（49.5%）で最も高く、最も低い60歳代（29.8%）と比べると19.7ポイントの差となっている。

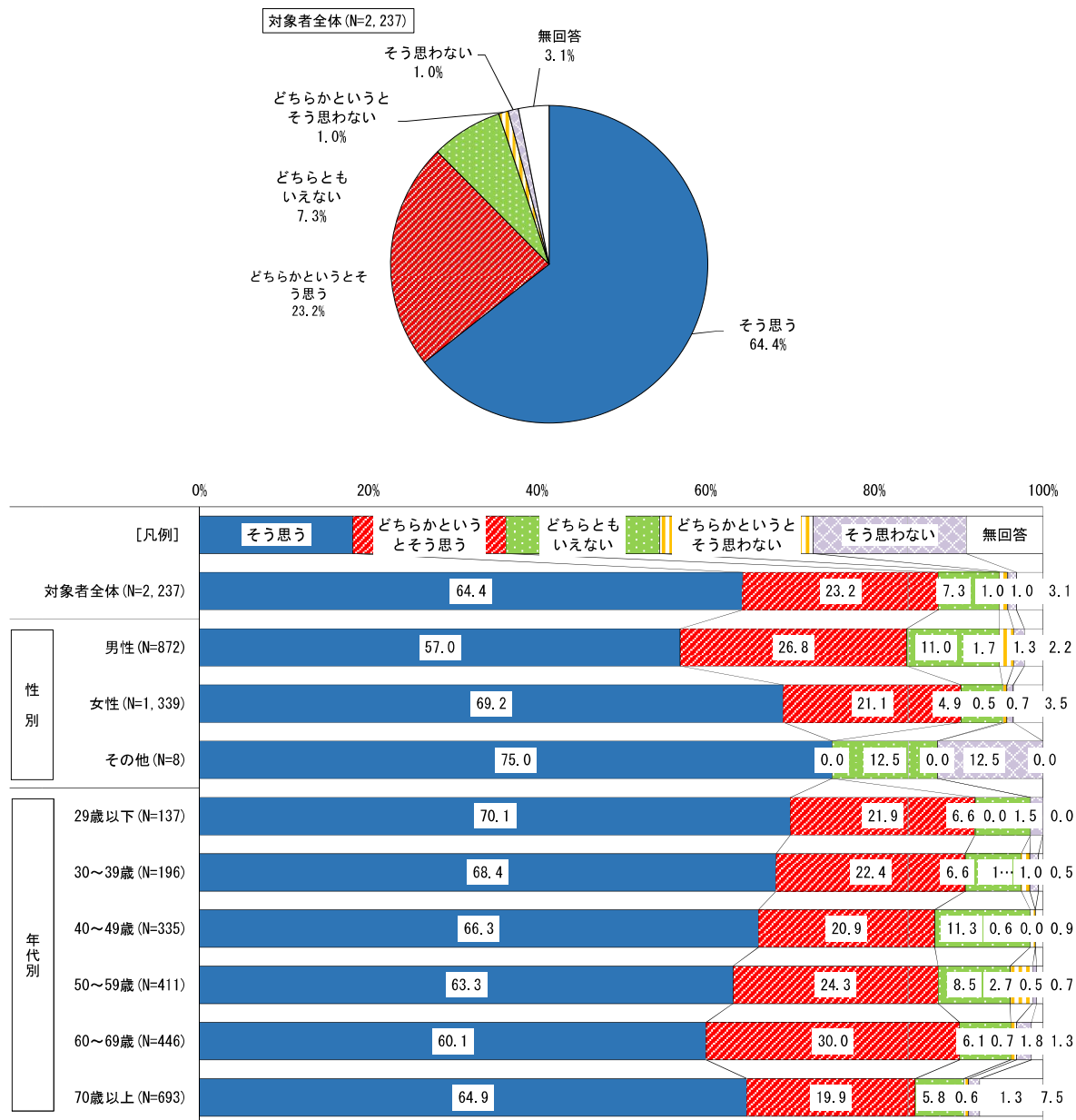
◇アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関する自身の考え

問30 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

オ 本人の意志だけでやめることは難しく、専門機関に相談することが大切

本人の意志だけでやめることは難しく、専門機関に相談することが大切だと「思う」人が87.6%

※ “思う” = (「そう思う」 + 「どちらかというと思う」)



【全 体】アルコールやギャンブル、薬物などを本人の意志だけでやめることは難しく、専門機関に相談することが大切なことを「そう思う」が64.4%、「どちらかというと思う」が23.2%、合わせると87.6%となっている。一方で、「どちらかというと思わない」が1.0%、「そう思わない」が1.0%、合わせると2.0%となっている。

【性 別】「そう思う」は女性が69.2%と、男性の57.0%より12.2ポイント高くなっている。また、「どちらかというと思う」「どちらともいえない」は、男性が女性より5.7ポイント以上高くなっている。

【年代別】「そう思う」が29歳以下(70.1%)で最も高く、次いで30歳代(68.4%)、40歳代(66.3%)となっている。

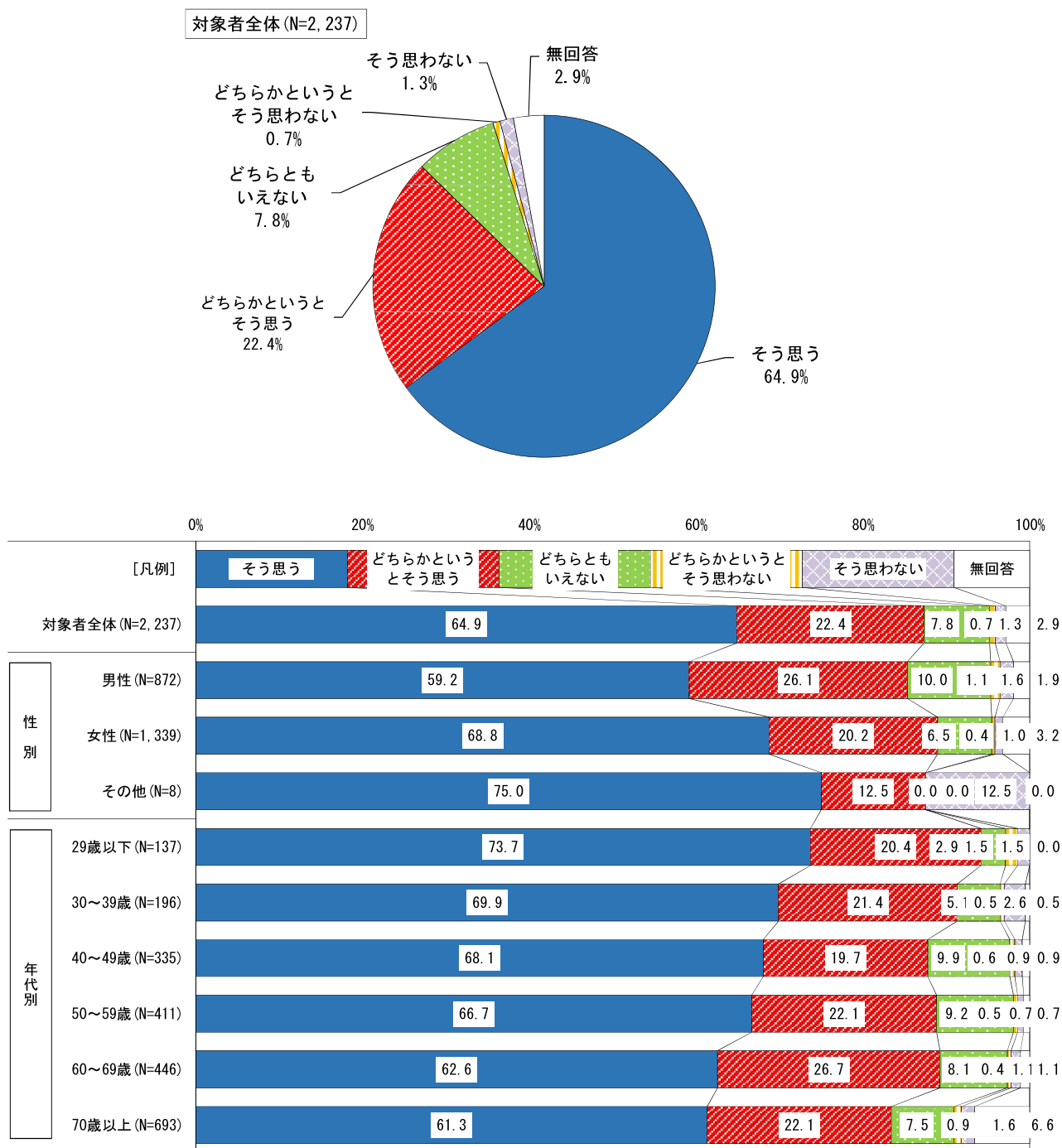
◇アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関する自身の考え

問30 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

カ 本人が依存症であることを認めることから回復が始まる

本人が依存症であることを認めることから回復が始まると「思う」人が87.3%

※ “思う” = (「そう思う」 + 「どちらかというと思う」)



【全 体】本人が依存症であることを認めることから回復が始まることを「そう思う」が64.9%、「どちらかというと思う」が22.4%、合わせると87.3%となっている。一方で、「どちらかというと思わない」が0.7%、「そう思わない」が1.3%、合わせると2.0%となっている。

【性 別】「そう思う」は女性が68.8%と、男性の59.2%より9.6ポイント高くなっている。また、「どちらかというと思う」は、男性が26.1%と、女性の20.2%より5.9ポイント高くなっている。

【年代別】「そう思う」は、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

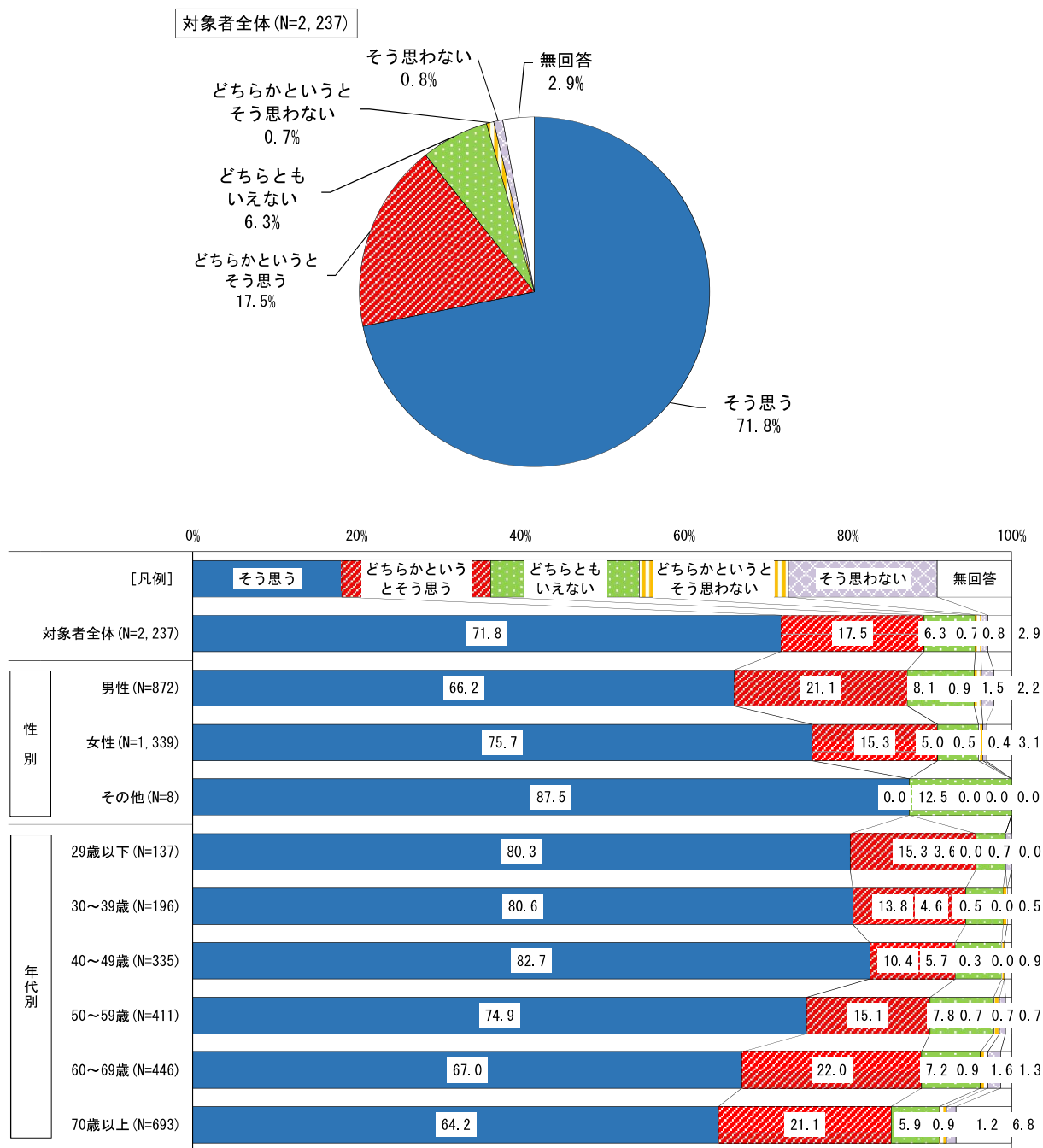
◇アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関する自身の考え

問30 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

キ 依存症の回復には長い時間がかかる

依存症の回復には長い時間がかかると「思う」人が89.3%

※ “思う” = (「そう思う」 + 「どちらかというと思う」)



【全 体】 依存症の回復には長い時間がかかることを「そう思う」が71.8%、「どちらかというと思う」が17.5%、合わせると89.3%となっている。一方で、「どちらかというと思わない」が0.7%、「そう思わない」が0.8%、合わせると1.5%となっている。

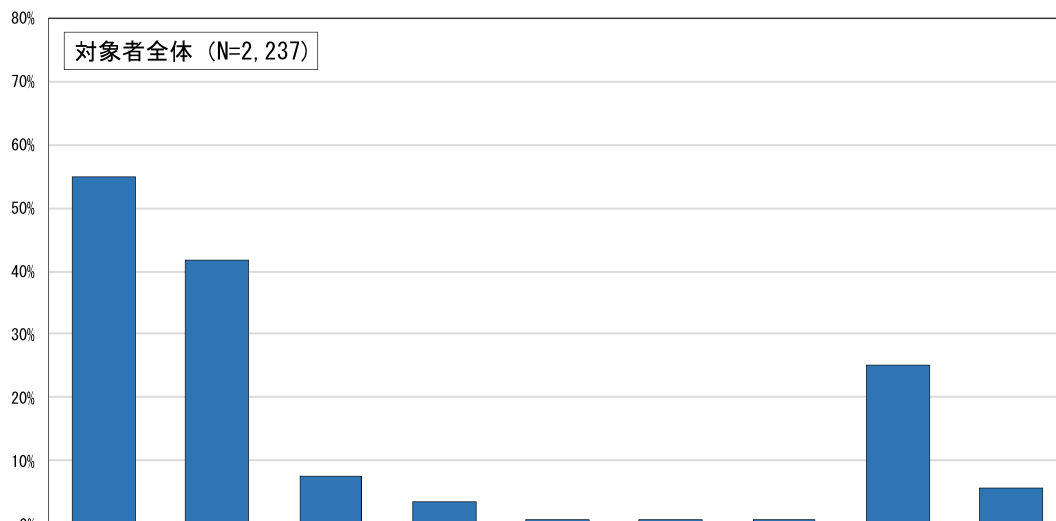
【性 別】 「そう思う」は女性が75.7%と、男性の66.2%より9.5ポイント高くなっている。また、「どちらかというと思う」は、男性が22.1%と、女性の15.3%より6.8ポイント高くなっている。

【年代別】 「そう思う」が40歳代(82.7%)で最も高く、最も低い70歳以上(64.2%)と比べると18.5ポイントの差となっている。

◇自殺対策の取り組み

問31 次の自殺対策の取り組みのうち、あなたが知っていたものにいくつでも○をつけてください。

自殺対策の取り組みについて「北海道いのちの電話」を知っていた人が54.9%



		対象者数	北海道いのちの電話	札幌こころのセンター 心の健康づくり 電話相談	札幌市依存症 相談窓口	Webサイト「札幌こころのナビ」	ゲートキーパー 研修会	マンガで知ろう「ゲートキーパー」 の役割	その他	知っている 取り組みはない	無 回 答
		(%)									
対象者全体		2,237	54.9	41.7	7.5	3.4	0.8	0.8	0.5	25.1	5.8
性別	男性	872	46.3	36.0	5.7	3.4	0.9	1.3	0.5	33.9	5.5
	女性	1,339	60.8	45.7	8.7	3.5	0.7	0.4	0.5	19.3	5.7
	その他	8	75.0	37.5	12.5	-	-	-	-	25.0	-
年代別	29歳以下	137	43.1	45.3	7.3	8.0	0.7	-	0.7	38.7	-
	30～39歳	196	49.0	42.3	9.7	3.6	1.5	1.5	-	31.6	0.5
	40～49歳	335	54.3	34.6	5.1	4.5	-	1.2	-	31.9	1.8
	50～59歳	411	58.4	42.6	5.6	4.1	1.5	1.0	0.7	25.3	1.2
	60～69歳	446	63.9	46.4	6.1	4.0	0.7	0.7	0.9	22.0	2.9
	70歳以上	693	52.1	41.1	10.2	1.3	0.7	0.4	0.6	19.0	14.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】自殺対策の取り組みについて知っていたものは、「北海道いのちの電話」が54.9%、「札幌こころのセンター 心の健康づくり電話相談」が41.7%、「札幌市依存症相談窓口」が7.5%となっている。

【性 別】「北海道いのちの電話」「札幌こころのセンター 心の健康づくり電話相談」は、女性が男性より9.7ポイント以上高くなっている。

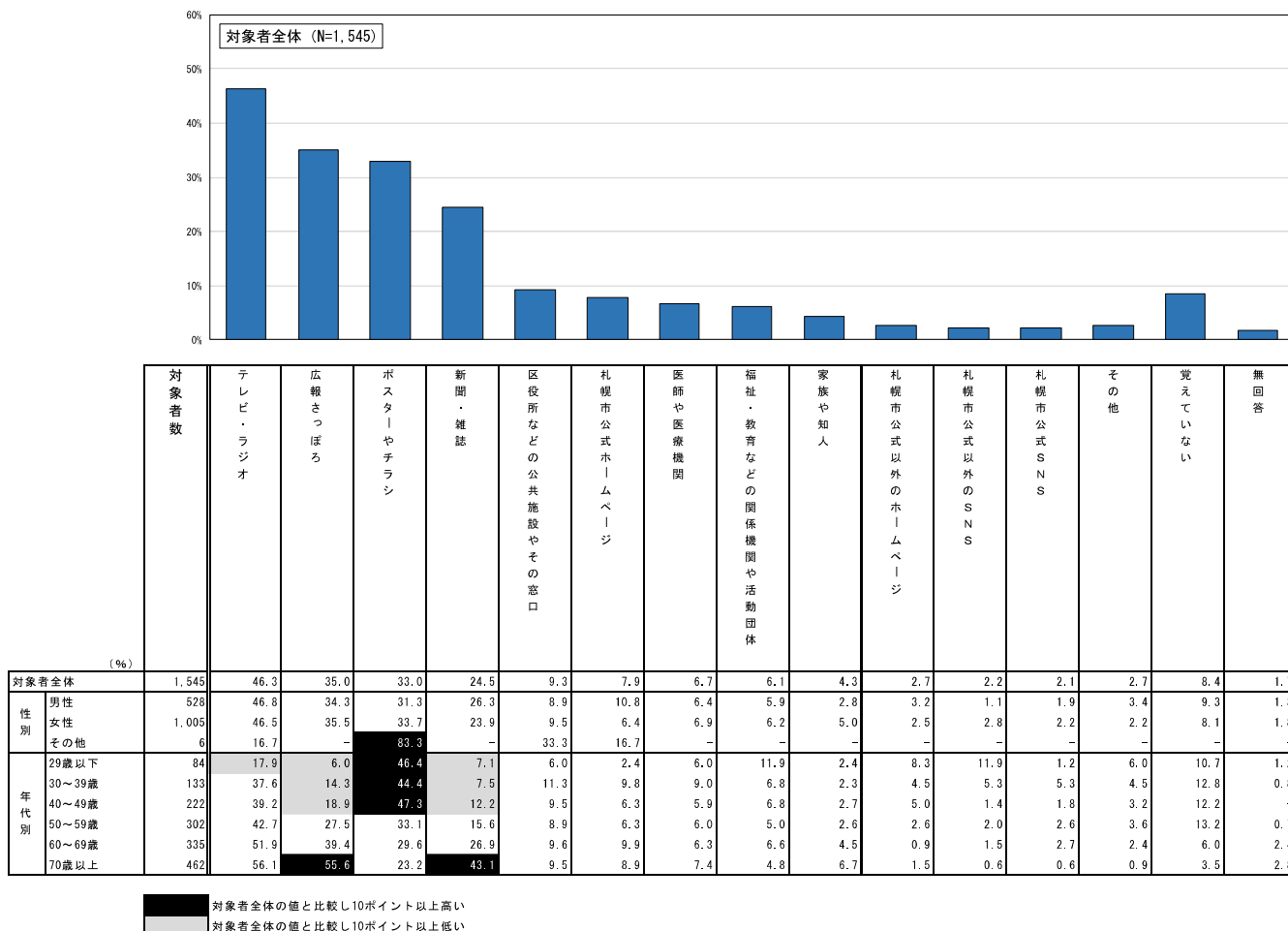
【年代別】「北海道いのちの電話」が60歳代（63.9%）で最も高く、最も低い29歳以下（43.1%）と比べると20.8ポイントの差となっている。

◇自殺対策の取り組みを知ったきっかけ

≪問31で「1」～「7」のうち、一つでも自殺対策の取り組みを知っていたと答えた方にお聞きします。≫

問31-1 あなたは、札幌市の自殺対策の取り組みをどのように知りましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

自殺対策の取り組みを知ったきっかけは、「テレビ・ラジオ」が46.3%



【全 体】自殺対策の取り組みを知ったきっかけは、「テレビ・ラジオ」が46.3%、「広報さっぽろ」が35.0%、「ポスターやチラシ」が33.0%となっている。

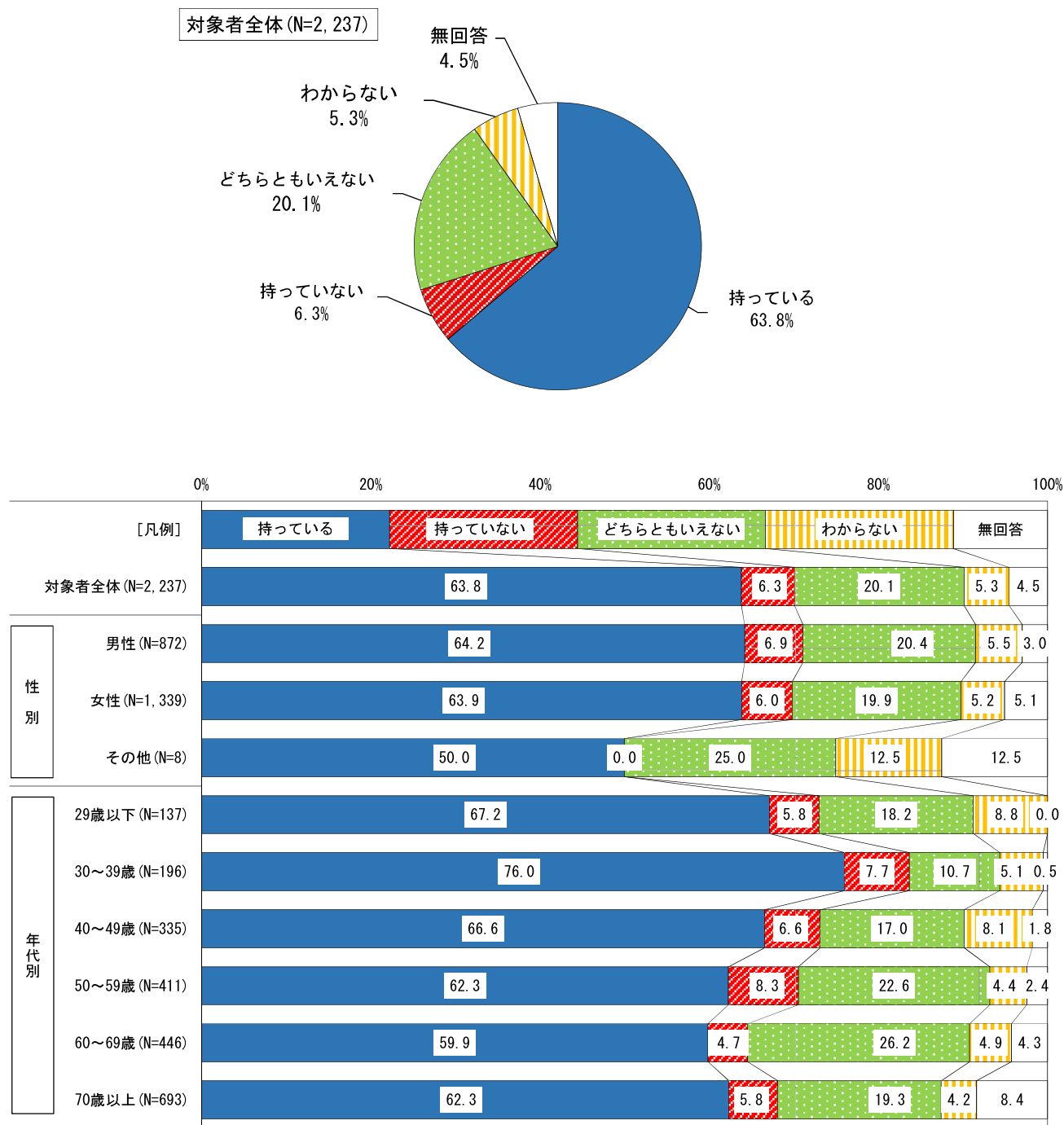
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「テレビ・ラジオ」「広報さっぽろ」「新聞・雑誌」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇「生きがい」を持っているか

問3 2 あなたは「生きがい」を持っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

生きがいを「持っている」と回答した人が63.8%



【全 体】生きがいを持っているかについて、「持っている」が63.8%となっている。一方で、「持っていない」が6.3%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

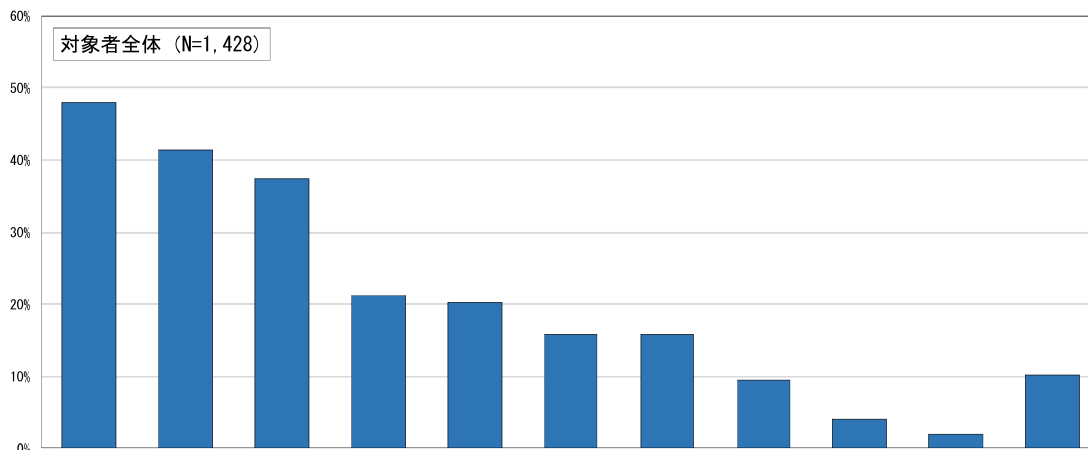
【年代別】「持っている」が30歳代（76.0%）で最も高く、最も低い60歳代（59.9%）と比べると16.1ポイントの差となっている。

◇自身の持っている「生きがい」の内容

「問32で「1 持っている」と答えた方にお聞きします。」

問32-1 あなたの「生きがい」の内容はどのようなものですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

持っている「生きがい」の内容について、「子や孫、その他家族のこと」と回答した人が48.0%



		対象者数	子や孫、その他家族のこと	趣味のこと	配偶者・パートナーのこと	友人など家族以外との交流	好きなものの飲食	仕事・学業のこと	自分自身の健康づくり	ペットのこと	地域活動・ボランティアのこと	その他	無回答
		(%)											
対象者全体		1,428	48.0	41.5	37.3	21.1	20.3	15.8	15.8	9.5	4.1	1.8	10.2
性別	男性	560	41.4	45.5	46.3	15.0	19.6	17.1	15.2	5.7	5.0	1.3	11.4
	女性	855	52.6	38.7	31.6	25.0	20.8	15.0	16.3	12.2	3.6	2.0	9.5
	その他	4	25.0	100.0	25.0	50.0	-	-	-	-	-	25.0	-
年代別	29歳以下	92	21.7	55.4	32.6	31.5	31.5	20.7	4.3	15.2	-	2.2	8.7
	30～39歳	149	47.0	43.0	43.0	17.4	30.2	16.1	4.0	13.4	0.7	2.0	10.7
	40～49歳	223	57.0	33.6	37.7	13.5	23.8	24.2	4.5	8.5	0.4	1.3	11.7
	50～59歳	256	52.0	44.5	37.9	14.1	23.8	20.3	6.6	10.2	2.3	0.8	10.5
	60～69歳	267	42.7	42.7	37.5	24.3	15.7	17.6	15.0	11.2	5.2	3.0	10.5
	70歳以上	432	50.5	39.8	35.9	26.4	13.4	6.5	34.0	6.3	8.6	1.6	9.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】自身の持っている生きがいについて、「子や孫、その他家族のこと」が48.0%、「趣味のこと」が41.5%、「配偶者・パートナーのこと」が37.3%となっている。

【性 別】「子や孫、その他家族のこと」「友人など家族以外との交流」「ペットのこと」は、女性が男性より6.5ポイント以上高くなっている。また、「趣味のこと」「配偶者・パートナーのこと」は男性が女性より6.8ポイント以上高くなっている。

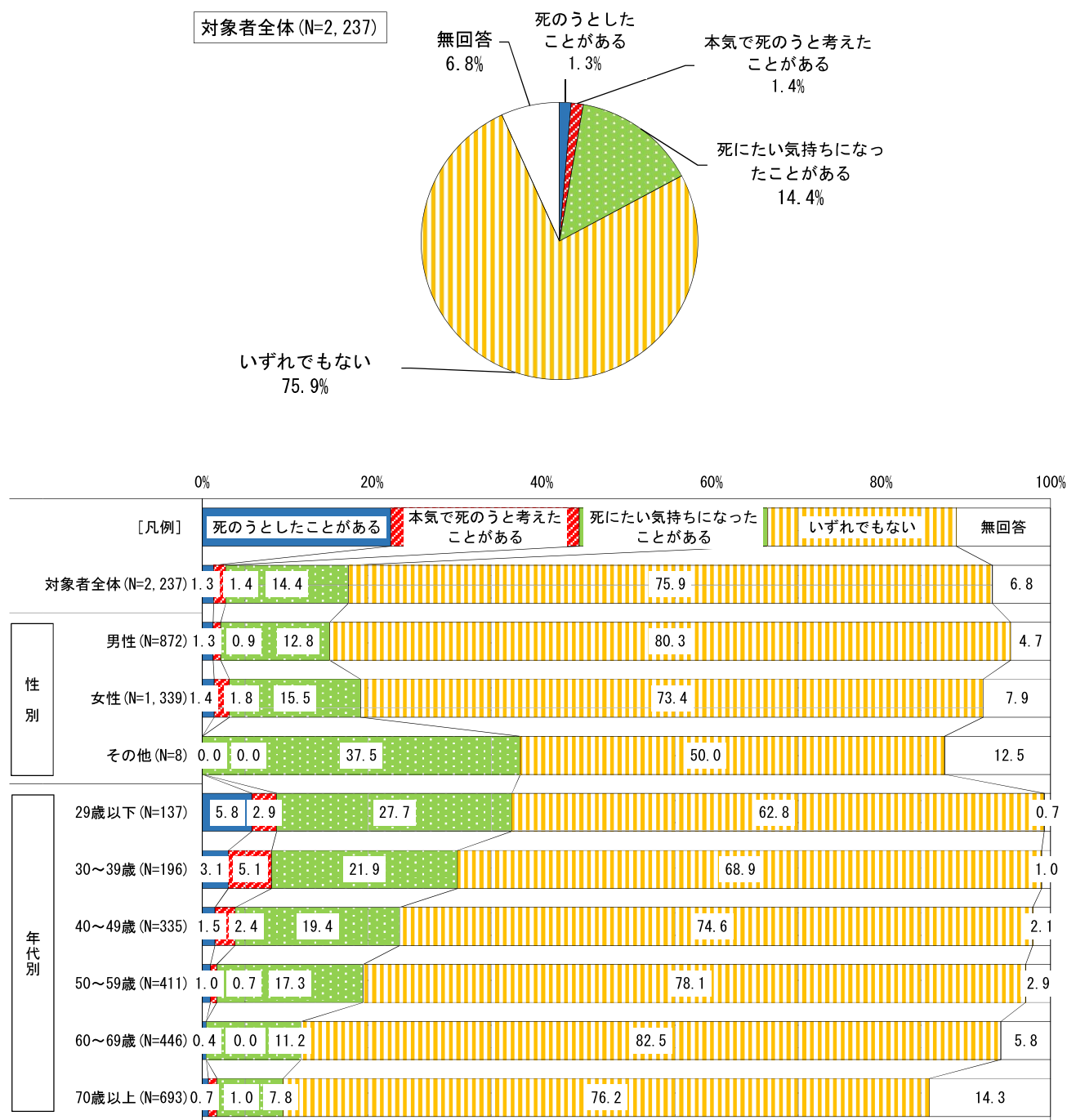
【年代別】「好きなものの飲食」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇過去1年間のうちに死のうとした、死にたいと考えた事があるか

問33 あなたは過去1年間のうちに、死のうとした、本気で死のうと考えた、または死にたい気持ちになったことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

過去1年間のうちに死のうとした、死にたいと考えた事が「ある」人が17.1%

※ “ある” = (「死のうとしたことがある」 + 「本気で死のうと考えたことがある」 + 「死にたい気持ちになったことがある」)



【全 体】過去1年間のうちに死のうとした、死にたいと考えた事があるかについて、「死のうとしたことがある」が1.3%、「本気で死のうと考えたことがある」が1.4%、「死にたい気持ちになったことがある」が14.4%、合わせると17.1%となっている。一方で、「いずれでもない」が75.9%となっている。

【性 別】「いずれでもない」は、男性が80.3%と、女性の73.4%より6.9ポイント高くなっている。

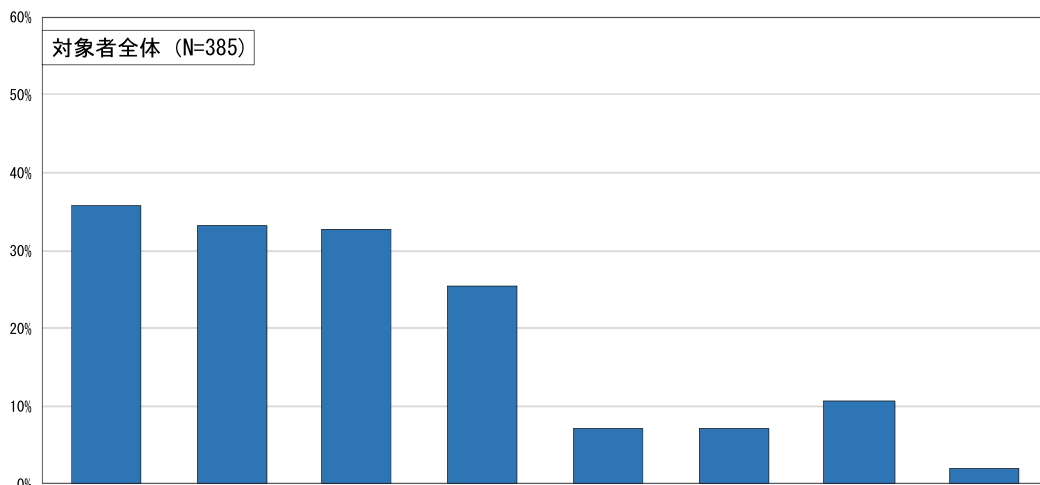
【年代別】「死にたい気持ちになったことがある」が29歳以下(27.7%)で最も高く、最も低い70歳以上と比べると19.9ポイントの差となっている。

◇死のうとした、死にたいと考えた原因

◀問33で「1 死のうとしたことがある」または「2 本気で死のうと考えたことがある」「3 死にたい気持ちになったことがある」と答えた方にお聞きします。▶

問33-1 あなたが、死のうとした、本気で死のうと考えた、または死にたい気持ちになった原因は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

死のうとした、死にたいと考えた原因は、「家庭の問題」が35.8%



		対象者数	対象者数 (%)	家庭の問題	勤務関係の問題	健康の問題	経済・生活の問題	交際の暴力・婚姻関係の問題	学校の問題	その他	無回答
対象者全体		385	(%)	35.8	33.2	32.7	25.5	7.0	7.0	10.6	1.8
性別	男性	131		27.5	48.9	28.2	38.9	7.6	7.6	10.7	1.5
	女性	250		40.4	24.4	34.4	18.8	6.4	6.8	10.8	2.0
	その他	3		33.3	66.7	66.7	-	33.3	-	-	-
年代別	29歳以下	50		32.0	34.0	28.0	14.0	10.0	32.0	6.0	-
	30～39歳	59		32.2	45.8	40.7	13.6	6.8	6.8	11.9	3.4
	40～49歳	78		43.6	51.3	23.1	29.5	10.3	5.1	5.1	1.3
	50～59歳	78		38.5	39.7	21.8	33.3	6.4	2.6	16.7	2.6
	60～69歳	52		28.8	17.3	40.4	30.8	5.8	1.9	9.6	-
	70歳以上	66		36.4	4.5	47.0	27.3	3.0	-	13.6	1.5

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】死のうとした、死にたいと考えた原因は、「家庭の問題」が35.8%、「勤務関係の問題」が33.2%、「健康の問題」が32.7%となっている。

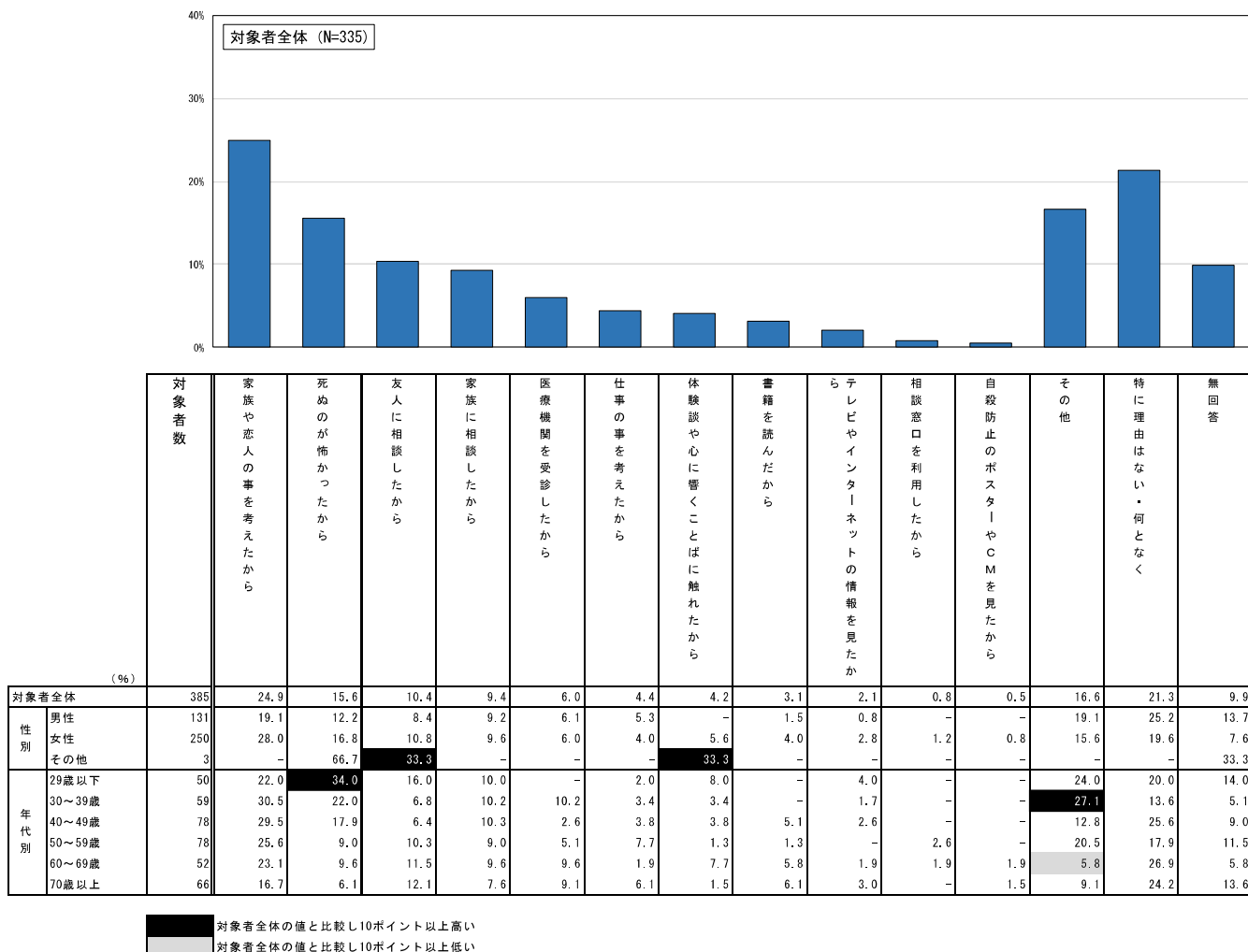
【性 別】「家庭の問題」は、女性が40.4%と、男性の27.5%より12.9ポイント高くなっている。また、「勤務関係の問題」「経済・生活の問題」は、男性が女性より20.1ポイント以上高くなっている。

【年代別】29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代では「勤務関係の問題」が最も高くなっている。

◇死のうとした、死にたいと考えたのを思いとどまったきっかけ

問33-2 あなたが、死のうとした、本気で死のうと考えた、または死にたい気持ちになった際に、思いとどまったのはなぜですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

死のうとした、死にたいと考えたのを思いとどまったきっかけは、「家族や恋人の事を考えたから」と回答した人が24.9%



【全 体】死のうとした、死にたいと考えたのを思いとどまったきっかけは、「家族や恋人の事を考えたから」が24.9%、「死ぬのが怖かったから」が15.6%、「友人に相談したから」が10.4%となっている。

【性 別】「家族や恋人の事を考えたから」「体験談や心に響くことばに触れたから」は、女性が男性より5.6ポイント以上高くなっている。

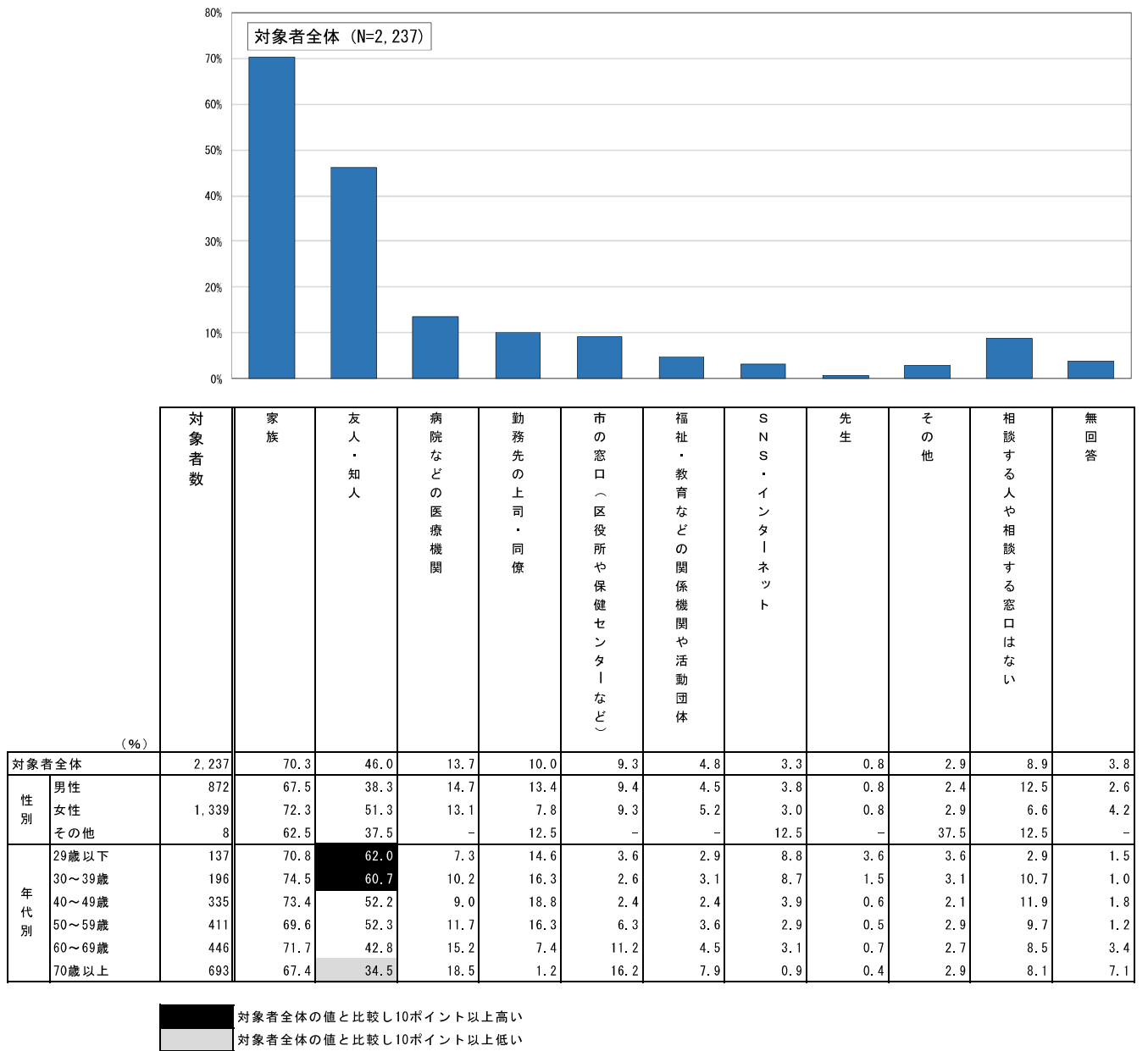
【年代別】29歳以下では「死ぬのが怖かったから」が、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「家族や恋人の事を考えたから」が最も高くなっている。

◇困りごとや相談を聞いてほしい相手、場所

「皆さまにお聞きします。」

問34 あなたは、困っていることや相談したいことについてどこに相談していますか。または、どこに相談しようと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

困りごとや相談を聞いてほしい相手、場所について「家族」と回答した人が70.3%



【全 体】困りごとや相談を聞いてほしい相手、場所については「家族」が70.3%、「友人・知人」が46.0%、「病院などの医療機関」が13.7%となっている。

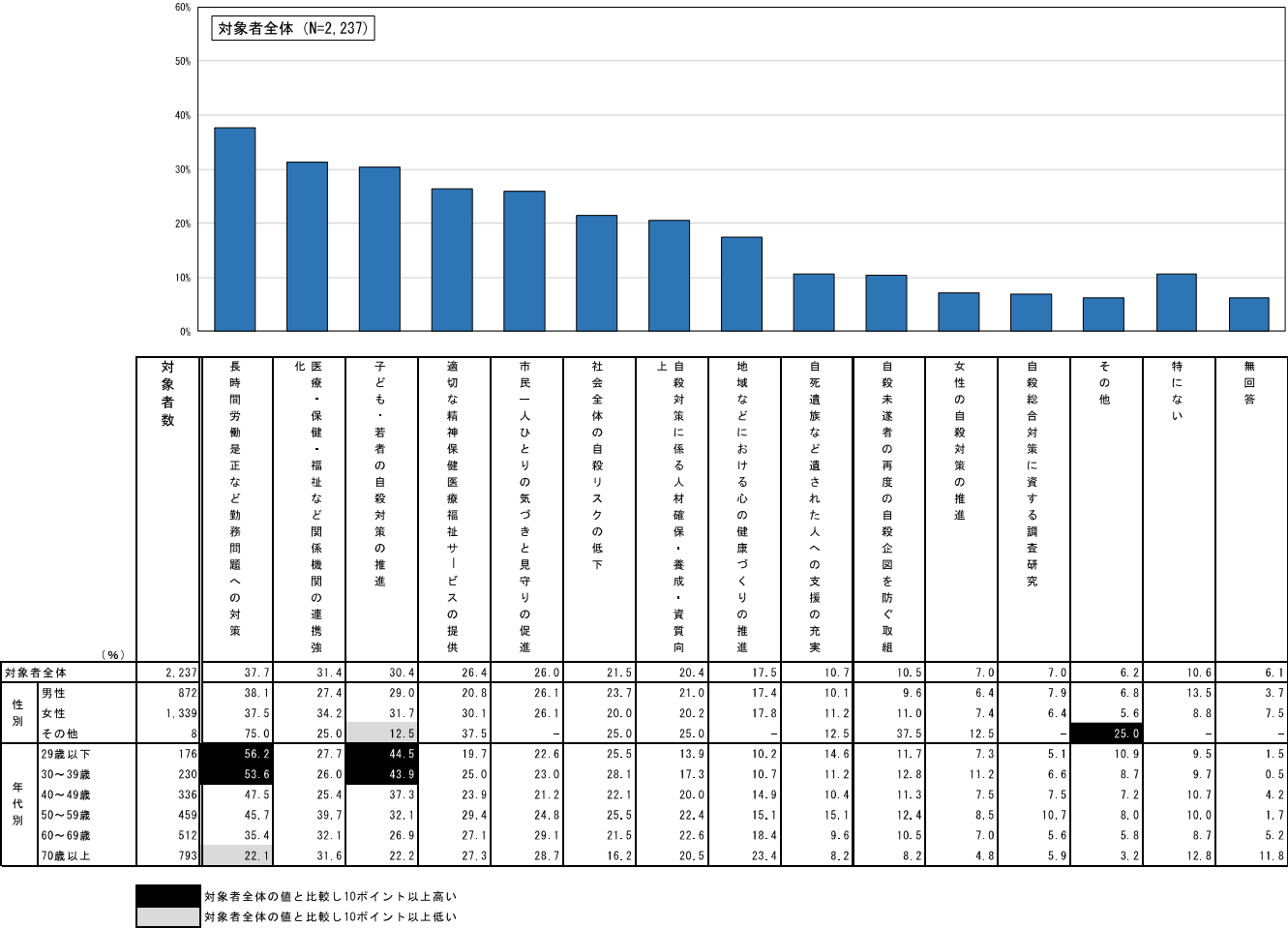
【性 別】「友人・知人」は女性が51.3%と、男性の38.3%より13.0ポイント高くなっている。また、「勤務先の上司・同僚」は男性が13.4%と、女性の7.8%より5.6ポイント高くなっている。

【年代別】全ての年代で「家族」が最も高く、次いで「友人・知人」となっている。

◇自殺のない社会の実現のために推進したい取組

問35 誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すために、あなたは、どのような取組を推進したいと考えますか。あてはまるものをいくつでも○をつけてください。

自殺のない社会の実現のために推進したい取組について、「長時間労働是正など勤務問題への対策」と回答した人が37.7%



- 【全 体】自殺のない社会の実現のために推進したい取組について、「長時間労働是正など勤務問題への対策」が37.7%、「医療・保健・福祉など関係機関の連携強化」が31.4%、「子ども・若者の自殺対策の推進」が30.4%となっている。
- 【性 別】「医療・保健・福祉など関係機関の連携強化」「適切な精神保健医療福祉サービスの提供」は、女性が男性より6.8ポイント以上高くなっている。
- 【年代別】「長時間労働是正など勤務問題への対策」が29歳以下（56.2%）で最も高く、最も低い70歳以上（22.1%）と比べると34.1ポイントの差となっている。